

大熊町統合医療ヴィレッジ(案)

はじめに ～大熊町の明るい将来を目指して～

今、国、自治体、個人の将来に対する経済的危機感が日増しに高まっています。

この危機は、個人レベルでは、年金、医療、介護問題などの困難となってすでに現実のものとなってきています。個人の将来は、国や自治体の発展に大きく依存していますが、国の政策には限界があり、また、どこの自治体も明るく明確なビジョンに基づいた具体的な解決案が不足しているのが現状です。そして、この危機を放置すれば、遠からず大変な事態になることは明白です。

そこで、先進各国の対策を調査したところ驚くべきことが分かりました。特にアメリカではその対策に官民が一体となってすでに積極的な取り組みが行われていました。彼らは、発展途上国が先進国に数年で追いついてしまう製造業でのムダな競争を避け、発展途上国の成長が数十年以上は追いつくことができない分野への産業構造の戦略的転換を計っていました。その分野とは“医療”と“教育”です。特に医療は世界的に需要が高まっており、発展途上国も十数年後には有用な医療の需要が高まると言われています。

ここで先進各国が目指す医療とは、あらゆる可能性を追求する統合医療(現代西洋医療と代替医療を融合したもの)をさしています。この統合医療と健康分野において、国、自治体、および個人の生活の発展を目指す方向に進んでいます。実際に、医療健康産業に携っている人の購買力はたった数十年で3倍となり、製造業に関わる人たちは2/3の購買力に大きく低下しています。そして、その差は年々拡大しています。この事実が気が付いた先進各国は国家や自治体の命運をかけて“医療・健康”産業の育成にシフトしているのです。

日本の統合医療の取り組みは、先進各国に比べると大変に遅れており、将来が危惧される状況になりつつあります。しかし、日本の医療関係者の技能は、世界的にも非常に高いので、大熊町が環境の整備に動けば、大熊町の住民が最高の治療を受けられるとともに、前述の先進各国の動きのように、大熊町の長期的な発展に大きく貢献するものといえます。このことは、将来、困難に遭遇するであろう自治体とそこに住む住民のさまざまな問題の健全化に役立つものと言えます。

日本ではまだこのような施設を本格的に運営しているところはありません。このことは、大熊町が日本で最初の統合医療を行う画期的な場所となる可能性を意味しています。大熊町は将来の発展や町民の健康を重視したことにより、日本で最初に統合医療を推進した町として歴史にその名を残すことになるでしょう。仮に、そのようなことがなかったとしても、孫や子々孫々に大切な資産と伝統を伝えられるすばらしい財産となると思われます。

I、知っておいていただきたいこと

1、新しい健康観について

4つの側面の健全化とウェルネス状態への誘導が大切であるというのが新しい健康観です。

4つの側面の健全化とは

私たちは、ヒトは、
肉体
エネルギー体(気の流れるエネルギー的身体)
心
スピリット
から成る複合体であると考えています。
そして、これら4つの側面を健全化することが大切であると考えています。

(参考)

WHO 健康の定義の改定の議論が意味すること

WHO(世界保健機関)では、10年以上前より「WHOの健康の定義」の改訂について議論されています。

現行の定義は、

『健康とは、肉体的、精神的、社会的に完全に満足のいく状態のことであり、単に病気や虚弱な状態ではないことを意味するものではない。』

改定案の定義は、

『健康とは、肉体的、精神的、霊的、社会的に完全に満足のいく活力に満ちた状態のことであり、単に病気や虚弱な状態でないことを意味するものではない。』

つまり、現行の定義では、肉体と精神が健全であることが大切だと述べられているのですが、改定案では、さらに、スピリット(霊性)の健全性の大切さが加えられているのです。このことは、ヒトが肉体と精神だけからなるのではなく、肉体、精神とスピリットから構成されているのだということを示すものだと理解しています。

さらに、ヒトが、肉体と精神から構成されているという前提のもとに体系化されている西洋医学の限界を示すだけでなく、今後はスピリット(霊性)までも扱うことができる医学体系が求められるだろうということを示唆するものだと考えています。

4 つの側面の健全化のためには、それらにとって何が栄養となり、何が害となるのかを知らなくてはなりません。私たちはすでにこれらを分析しています。

(資料 1)

西洋医学は肉体と心の一部分を扱う医学です。そのために、エネルギー体、心の深い部分やスピリットに問題があって病気が発生している場合、十分な効果を期待できないことがあるのです。一方、4 つの側面のどこに問題があるのかを分析し、すべての側面を健全化することにより、健康になっている人々が存在することを理解することが大切です。

ウェルネス状態への誘導とは

さらに

- 『 肉体
- エネルギー体
- 心
- スピリット

以上 4 つの要素の統合が最適に行われている機能状態』

これを、ウェルネス状態といますが、
ウェルネス状態に導くことが大切だと考えています。

(参考)

リチャード・ガーバーは、著書「バイブレーションル メディシン」のなかで次のように述べています。

『ウェルネス状態にある人は、幸福かつ健康であり、満ち足りている。そして、自己の人生に意味や目的意識を見出しながら生きている。「ウェルネス」の定義にこめられているのは、新しい考え方の習得を樂にし、自己の理解に新しい意味を見出し、精神的、霊的な成長を促進する意識の変革なのです。』

と。

ウェルネス状態の人は、真に健康であり、さらに、スピリットの成長を促進させようとする意識を常に持っています。

このような状態にある人は、自然と調和した生き方をするであろうし、愛、信頼、協力、成長、喜び、希望などを実感できる生き方がいかに大切なことであるのかを知るでしょう。

私たちはこのような人々を育てて行きたいのです。このような人々が増え、行動することによって、はじめて自治体や国、世界が抱える社会問題、教育問題、環境破壊問題などが解決される可能性が生じると考えられます。なぜなら、これらの諸問題は人類の未来にかかわる大きな問題ですが、もとをただせば一人一人のエゴ(心やスピリットの成長不足)と無知(正しい情報の不足)の集積によるものと考えられるからです。

具体的な例を2つあげますと、

(1)野生生物種の絶滅 (資料2)

野生生物種の絶滅は、1万年前には年に0.01種、1000年前には年に0.1種、100年前には年に1種、20年前には年に1000種でした。そして、現在は年に40,000種のペースで絶滅しています。地球には約140万種の野生生物が確認されていますから、年に4万種の絶滅はとても深刻なことなのです。

この根本の原因はどこにあるのでしょうか？

(2)子供たちに起きている深刻な問題 (資料3)

福島章氏の著書「子供の脳が危ない」によれば、殺人者の脳の形態異常の比率が50%前後と非常に高い(脳の健康診断といわれる脳ドックなどでみつかると異常は通常約1%)。この異常の原因として化学物質、環境ホルモンが強く疑われるという。

さらに、福島氏は訴えています。

『近年の子供の心理や行動の問題の背景に、環境ホルモンによる脳の形成異常がかかわっており、それが児童期には注意欠陥多動性障害、学習障害、学級崩壊、不登校などに、思春期では少年非行、学校内暴力など、青年期から成人期には殺人などの犯罪や、反社会的人格障害、境界例などの社会的不適応の原因の重要な一つとなる可能性がある』と。

つまり、子供たちの問題は、識者が説明しているような、学校教育が悪い、親の教育がなっていないというのとは違うレベルで起きている可能性を示唆しているのです。

どうして、疑わしい化学物質が使い続けられているのでしょうか。

有害だと証明されなければ安全なのでしょうが？

有害と認定されない限り、企業は何を生産してもよいのでしょうか？

ほんの一部分の例をのべましたが、これらの問題解決には、新しい科学技術の発見では不十分で、それを用いる「人間」が変わらなければならないのです。学び、気づきを得て、心やスピリットが成長し、価値観、世界観、人生観が変わらなければならないのです。

(資料4 ウェルネス)

従来、病気になった人をニュートラルな状態に戻すことが医療の目標でした。私たちが統合医療を通して目標とするのは、ニュートラルな状態を超えた、最大限の健康状態、または、「ウェルネス」と表現される状態なのです。このことが重要なのは、個人の健康の追求が社会や地球全体の幸福の実現につながっているという事なのです。

II、代替医学、代替医療とは

西洋医学以外の医学を代替医学といいます。代替医学のなかには心の深い部分やスピリット、それから東洋医学でいうところの気の流れる身体、にアプローチすることができるものがいくつもあります。代替医学を用いた医療を代替医療といいます。

1、代替医療とは

「病気になったとき、ほとんどの人は診療所や病院を受診します。そこではだいたいにおいて大学の医学部で教育されたいわゆる現代西洋医学に基づいた診療が行われています。これに対し、代替医療は現代西洋医学以外の医療全体を指すもので、それらのほとんどは日本の大学では教育されていません。代替医療は、日本で言う民間療法に近いものと考えて良いかもしれませんが、実際はそれよりけるかに広い範囲の医療を含んでいます。代替医療というと、日本では人気のビタミン、ミネラル、ハーブなどをもとにして作られた健康食品が思い浮かびますが、これは代替医療のほんの一部でしかありません。代替医療にはさまざまな医療、たとえばインドでのアーユルベータ、チベット医学、ユナニ医学などそれぞれの国で長い間培われてきた伝統医学や、ホメオパシーなどある研究者により開発された治療法、カイロプラクティック、指圧などの理学療法的な治療、その他音楽療法、アロマセラピー、芸術療法など、あらゆる医療が含まれています。(適切な代替医療)」

2、アメリカで起こったこと

アメリカは代替療法に否定的な国であった

州により違いがあったものの、基本的に、アメリカでは、1990年以前には、代替医療を患者に応用したり、代替医学の研究を行った医師に対し、それらを否定する措置をとっていました。

その背景には、代替医療が広まることは、一部大手企業の利益を損なうものだったからだといわれています。

突然の大きな変化により代替医療の先進国となった

ところが、情報化社会の実現(インターネットの普及など)により、改善の見込みがないと宣告された患者(病気の人)が代替医療の応用により良くなったという報告が一気に表面化したことから、国として国民の声を無視することができなくなり、ついに、1992年代替療法が解禁されたといわれています。

アメリカ NIH(国立衛生研究所)は、日本の厚生労働省に相当する世界最大の研究機関ですが、NIH の代替医療に対する取り組み(資料 5)からも、解禁後の代替医療の発展の目ざましさがわかります。

アメリカにおいては、民間の保険会社が医療に深く関与しているのですが、代替医療の応用、普及により、医療費が少なくなるということがわかったため、アメリカの健康保険組合が代替医療を給付対象にしたことも代替医療が急速に広まった理由のひとつと考えられています。(資料 6)

その結果、ガンの発症率、死亡率に変化が起こった

代替療法解禁の結果、アメリカにおいては、ガンの発症率と死亡率が 1990 年以降低下しはじめたと専門家は指摘しています。

日本においては、発症率・死亡率とも増加の一途をたどっています。(資料 7)

どんな代替療法がアメリカで用いられているのか

それでは、アメリカの代替医学について触れておきたいと思います。

NIH(国立衛生研究所)公表データによれば、

過去1年間に代替医学を使用した米国市民は	62.1%
今までに代替医学を使用したことのある米国市民は	74.6%

(2002 年 米国成人データ)

そして、一番よく使用される代替医学は、スピリチュアル療法、つまり、「スピリットの療法」だと報告しています。(資料 8)

研修医が用いる「スピリットについての教科書」

スピリチュアル療法については、補足しておきたいことがあります。アメリカでは、少なくとも 10 年以上前より研修医がスピリットの問題を扱った教科書「Textbook of Transpersonal Psychiatry and Psychology」を用いているという事実があります。

つまり、アメリカでは「スピリットの問題」を医学の一分野として扱っていて、医師がこれを学んでいるということです。(資料 9)

アメリカ以外の国々でも代替療法は益々利用されるようになってきている

以上のように、アメリカにおいてはスピリチュアル療法をはじめとした代替医療が多くの人々に用いられているのですが、このような傾向はヨーロッパ、ロシア、オーストラリアなどの国々にも認められていると報告されています。

今後、有望な業種とは

そして、アメリカで今後成長する業種は医療と教育だと分析されています。
製造業は成長が見込めないといわれています(数十年前と比べて、生産性は 50 倍になっ
たが収入は 2 / 3 途上国が数年後には同等のものを安価に生産)。

ここで言われている

医療とは・ 代替医療、ウェルネスの分野 です

教育とは・・・新しい知識と技術を身につけるための教育、自己実現するために必要な生涯
にわたる教育のことです。

以上のまとめ

以上を要約すると、

ヒトが

肉体

気の流れるエネルギー的身体

心

スピリット

から成る複合体であることに気づいた人々(医師や研究者も含まれる)は、肉体と心の一
部分だけを扱う西洋医学だけでなく、心の深い部分、気の流れるエネルギー的身体、スピ
リットにも対応できる新しい医学体系を求めています。

そして、この求めに応じることのできる代替医学・統合医療が注目され、世界中で急速に
応用されつつあります。

また、統合医療とウェルネスの分野は私たちの子孫に私たちの負の遺産を引き継がせな
いために、益々発展させなければなりません。

、 目的と目標

新しい健康観に基づいた医療、研修、研究の場(環境)を作り、広く人々の真の健康増進(肉体、エネルギー体、心、スピリットの健全化 さらにウェルネス状態への誘導を目指すこと)に努め、かつ、将来の大熊町の発展に寄与したい。

A、 目標を達成するための活動内容

1、 医療

大熊町の町民の要望が高い小児科、リハビリ科(整形外科)の外来診療を行う。

現代西洋医学にありがちな根本原因を放置したまま症状だけを打ち消そうとする対症療法ではなく最先端のエネルギー医学(資料 10)を基礎にしたエネルギー測定により疾病の真の原因を明らかにし、その原因を解決することによって症状を解消していく、非侵襲的な根治療法を一般の外来患者のみならず特にガン、アレルギーをはじめとする多くの難治性疾患を抱える患者さんに応用していく。

エネルギー医学の一分野である鍼灸技術を独自に開発して脳卒中の患者さんのリハビリに応用し、抜群の回復成績を上げている權威の先生を招き、東北一円の患者を集め、診療を行うと同時に、その技術を若い世代の治療家や医師に普及させるべく大熊町に集め、研修してもらおう。

将来的には脳卒中患者の回復期リハビリのために入院施設を整える。

2、 研修

医療従事者の研修

新しい健康観を通じて健康観のみならず、世界観や人生に対する気づきを得るための一般向けの研修

この研修により自然と調和した生き方が大切であること、さらには、愛、信頼、協力、成長、喜び、希望などを実感できる生き方が大切であることを理解できるようになる。

3、 研究

エネルギー医学の研究

新しい健康観に基づいた評価方法により

- ・ 化学物質や食品の安全性を評価する
 - ・ 健康のために良い農産物を見つけ出す農業方法を研究する
 - ・ サプリメントを開発する
 - ・ 空気清浄機や浄水器をはじめとした環境浄化の技術を開発する
 - ・ 化粧品を開発する
 - ・ 洗剤、歯磨き粉を開発する
 - ・ その他;エネルギー医学を応用した製品を開発する
- などを行う

4、農業

大熊町ヴィレッジの独自基準によって評価された健康増進に役立つ、高付加価値の農産物を大熊町のオリジナル・ブランドとして生産し、全国に販売する。

5、補足

[食品、化学物質、製品などの評価について]

新しい健康観においては、

ヒトは、肉体、気の流れるエネルギー的体、心、スピリットからなる複合体と考えています。これまで化学物質、食品やサプリメント、製品の安全性や効果は、

主に、 肉体レベルで問題を引き起こすかどうかの有無、
肉体レベルでの効果の有無

の観点からのみ評価されてきました。

エネルギー的体、心、スピリットに対しては、どのような作用・効果があるのかは評価されてこなかったのです。

健康に関する様々なものを、上記の肉体からスピリットまでの4つの側面から効果の有無、安全性について研究を進め、4つの側面すべてによいものを普及してゆくつもりです。

[現代農業の問題点と、新しい健康観からみたこれから期待される農業]

農業の問題

農作物中に含まれる栄養成分(ビタミン、ミネラル、酵素など)が、ここ数十年の間に急激に減少しています。

原因として、

- ・ 「旬」を無視した栽培
- ・ 見栄えや味がよく、病気が少なく、たくさん収穫できる品種改良の推進
- ・ 農薬や化学肥料の使用

が指摘されています。

作物のビタミンや酵素は土壌中の微生物が担っているが農薬や化学肥料は土壌中微生物の生態系に悪影響を与えます。

このような農産物に病気を治す力はあまり期待できません

これから期待される農業

- ・ 無農薬で基本的には有機肥料(ビタミン、ミネラル、錯体酵素が多量に含まれている)の使用
- ・ 土壌中の微生物の生態系が保たれていること
- ・ エネルギー医学の応用
- ・ 品種の選定

たとえば、米の場合、数千年以上かけて体に良い生命力の高い品種が作られてきました。ところが、数十年前より化学肥料や農薬の開発により、品種の選定・開発方法が変わりました。つまり、化学肥料、農薬を使用した場合、どの品種がより多く収穫できるか、おいしいかということが注目されるようになり、昔の人々が繊細な感覚で選んでいた体に良く、生命力の高い品種が作られにくくなりました。

今回、これらを復活させ、ビタミン、ミネラルや酵素が多く含まれた生命力にあふれた農産物を作っていきます。このような農産物は病気に対する抵抗力、治癒力を高めてくれるはずです。

[化粧品]

一見、健康と無関係に見えるのですが、化粧品の中には必ずしも安全とは言い切れない物質を含むことがあるといわれています。

皮膚、肺から吸収された有害物質は体外に排出されにくいことも知られています。

そのため、日常的に使用される化粧品は安全なものであることが望まれます。

、以上の活動のために必要なことから

これを実現するための

A,環境

B,知識・技術

C,人材

が必要とされます。

A、環境

環境(建築物、周囲環境)

生命力を高め、積極的に癒しに導く環境が大切です。

1、施設(建築物)

診療施設(外来)

- (a)リハビリ施設
- (b)小児科
- (c)鍼灸
- (d)難病疾患治療センター

療養・ウェルネス施設

- (a)研修室・講義室
- (b)宿泊施設(個室、木造り、ノンアルデヒド)
- (c)メデイテーションルーム
- (d)レストラン(大熊町農産物を使用したバイキング方式レストラン)
- (e)視聴覚ルーム(10万Hz治療・研究・BGM)
- (f)カウンセリング・ルーム
- (g)芸術関連施設(多目的ホール)

研究施設

- (a)細胞実験室(安全性試験、毒性試験)
- (b)動物実験室(免疫)
- (c)環境浄化研究室

農業

(a)農産物通販・物販センター

(b)大熊町ブランド管理センター

補足:施設(建築物)が満たすべき要件

ヒトの病を従来のように単に肉体上の不具合、故障とみなし、これを修理するための物理的便利さや要求を満たすだけの箱ものであってはいけません。ヒトが肉体、エネルギー体、心、スピリットから成るものであるとしたときに、建築物の満たすべき要件は大きく変わります。

周囲の自然環境と調和する

癒しに積極的に作用する

- ・ 構造(対称、非対称)
- ・ 色
- ・ 配置
- ・ ジオパシックストレスの除去
(ただし、シューマン波など有益なものは遮らない)
- ・ 有害電磁波の緩和
- ・ 有害化学物質を使用しない
- ・ 波動セラミックの使用
- ・ 木、土、石、漆喰、火山灰等を用いる

気のコントロール

熱のコントロール(空調)

汚水の浄化

化学物質を無害化、吸収する材料・技術の応用

ガン意識体の除去、中和

建築物よりの景観(癒しに作用する)

川砂の使用(海砂は使用しない)

作業動線

音楽の効用

2、周囲環境

微生物、小動物(トンボ、ホタル、セミ、チョウ、カエルなど)が自生する

動物(鳥、ウサギ、ヤギなど)

植物(草、樹木など)の生態系が調和している。

樹木で気の流れ、性質、供給量をコントロールする。

池、川

松、榎を中心に植樹する。国蝶のオオムラサキの里にする。

芝は、野生芝を使用する

川上(水流の 10 日上流から水質を変える)に魚骨・豚骨・カキガラセメントを投入する
(900g 塊を 200m ごとに投入)。

用水路にも魚豚蛎セメント投入する

水源の変異原性検査(横浜市立大の論文参考)

人の心が環境を大きく左右する

人の心 ・この場で働く人々の心の状態がこの場に大きく作用することを忘れてはなりません。愛、思いやり、希望、喜び、信頼、協力、成長などにあふれた場であることが大切です。

B,知識・技術

西洋医学・・・

小児科
整形外科
皮膚科
リハビリ科

(資料5)

西洋以外のもの(代替医療)

栄養療法

代謝療法...マクロビオティック、ゲルソン療法、分子矯正

栄養学

ハーブ

ビタミン

ミネラル

酵素

サイコ・スピリチュアル療法

カウンセリング

ヒプノ療法(退行療法も含む)

メディテーション

気功

イメージ療法

エネルギー療法

EAV

温泉療法

デトックス療法

教育

人生目的

芸術療法

ウェルネス

精神、スピリットの成長を促進させる知識・技術

C,人材

どのような人々がこの計画に参加し活動していくのか

1、医療従事者

医師

看護師

理学療法士

レントゲン技師

2、教育担当者

3、事務担当者

4、環境整備担当者

清掃

作物栽培(ハーブなど)

建物・周囲環境の管理

5、調理担当者

入院者用、職員用、来客用

6、配送担当者

サプリメント、農作物

最初の人がある大切なことに気づいたり、技術の獲得に1年を要したりしたとすれば、次に、この道に続こうとする人が3ヶ月とか6ヶ月で同等のものを得られるようなシステムを、最初の人や後に続く人々のために作っておくことが大切です。このような循環が形成されるならば、この組織は常に発展していくでしょう。逆の循環が形成されることのないよう十分に注意していく必要があります。

今回の活動は実に広い範囲を扱うのでどれほどの天才であってもひとりですべてを行うことなどできようがありません。協力し合いながら有機的に(ひとつの生命体のごとく調和しながら)活動していくことが重要です。そのためには、多くの人々と協力しながら得た成果を各個人が自分の成果とも受け止め、喜びと感ずることができるということが大切になってきます。後に続く人々や仲間に対する思いやり、配慮がこの活動を飛躍的に発展させることでしょう。そして、愛、信頼、協力、成長。喜び、希望を実感できる生き方が大切だという認識のある人の参加が望ましいのです。各個人が有する能力が最大に引き出され発揮できる環境を作ることも重要です。

より多くの大熊町の皆様に、この活動に参加していただくことを願っています。

V、どのような人々に利用されるのか

1、医療分野

病気の人

難治性疾患の人

西洋医学的には手段がないといわれた人など

「新しい健康観」や新しい知識・技術を学びたいという医療従事者

2、ウェルネス分野

もっと健康になりたい人

自己をとりまく環境を改善したい人

もっと広く、深く、知識を得て、これからの人生に役立てたいという人

運を良くしたい人

運命を変えたい人

心を明るくしたい人

重荷をかかえた人

新しい考え、知識を習得し、心、スピリットの成長を促したいと考える人

未来のために(子孫のために)貢献したいと願う人

癒しの場で時間を過ごしたい人

新しい健康観を知りたいという人

など

VI、運営形態

私たちは数十年かけて作り上げた新しい健康観、医療・健康に応用できる特殊技術を提供します。

これらの特殊技術のなかには、研究グループの各自が独自の発想・研究により確立した他に類のないすばらしいものがいくつもあります。

これまでは、私たちは個々に活動していて、さらに、医師法、薬事法、設備、協力者不足などの問題もあって、いかに、すばらしい技術を持っていても、それを表現するには限界がありました。

今回の案に示されたような環境、その他が整うと各自が協力し合いながら最大の力を発揮できるようになるため、発展のスピードが急速に早まり、その規模も急速に拡大することでしょう。

提案しているような施設は、国内に例がないために、多くの人々に用いられることになるでしょう。結果として利用者、ここで働く人たち、町の人々に大きな利益をもたらすことになると考えています。

運営形態について

運営形態については、最終的には町との協議によります。しかし、基本的には以下のことを大切に考えていきたいと考えております。

この施設の利用者や、ここで働く人々の利益を第一に考えながらも、できるだけ早く黒字にするつもりです。

利益は私たちの理念を実現し、さらに、この活動を拡大するために用います。

この施設で働く人々に適切な利益を還元するのは当然なことであるが、一部の人々に利益が集中することを回避しなければなりません。

つまり、利益は理念の表現と拡大に用いられるのです。

この施設を運営する組織の資産が増えることはあっても決して個人の資産が不当に増えることのないシステムのなかで運営されていくのです。

(参考)

すでに、別紙のようなサプリメントを開発し、利益をこの活動に用いていくことになっています。

(資料 11)

さらに、いくつかの製品開発と農産物(他の組織と違ったか考えに基づき作られた)の販売、販売促進を通して、この活動に貢献していく予定です。

、メリット

町民の仕事の場が増える

医療費が減る

農業の収入増

町より特殊技能者を輩出する

治療に共鳴する患者、医療従事者が、全国から集まる

宿泊者の増加

町の環境の改善(自然、人の心の状態)

新しい製品の開発、製品の分析

健康(ウェルネス状態)の人が増加する

(病気を抱えながら長生きするのと、最大に健康な状態で生きることには大きな差がある。さらに、ウェルネス状態の人々は社会に対してこれまで以上に大きな貢献をすることになるでしょう。)

大熊町が全国より注目される。

海外からも注目される可能性がある。

、最後に

今回、提案したことを全て行っている施設は、日本には存在しません(提案の一部を行っている施設はあるのですが)。

この案が実施されるのであれば日本で最初のことなので、マスコミや多くの人々に注目されることでしょう。どんなに多額の費用をかけても有名人や優秀な人材を集めても、どこにでもあるような施設であれば注目は一過性のものとなるでしょう。

いかに日本最初の施設であっても持続的に注目されるためには、環境、知識、技術、物、人材が本物(内容が伴っている)であることが不可欠です。

また、この活動には一貫した揺るぎのない哲学(理念)が存在するのですが、ここを訪れる人々にそれを心の深いところで実感していただくことが重要だと考えています。そのためには、ここで活動する人々が共通の理念を持つことが大切です。そうすれば、多くの人々にこの施設は利用され続け、益々発展してゆくことになるでしょう。